資料９

公 共 事 業 再 評 価 調 書

２０１９（令和元）年７月１日現在

１．事業概要及び事業の必要性

事業名	神嶽川都市基盤河川改修事業						
事業箇所	【神嶽川】下流端：二級河川紫川合流点 上流端：金久田橋　延長：2,780m 【砂津川】下流端：小倉北区末広１丁目地先 上流端：神嶽川分流点　延長：1,240m						
事業化年度	1970 年度（昭和４５年度）			前回評価年度	2009 年度（平成２１ 年度）		
全体事業費	前回評価時	14,600 百万円		現時点	16,100 百万円		
補助区分	前回評価時	社会資本整備 総合交付金		現時点	社会資本整備 総合交付金		
関係事業 (他団体含む)	前回評価時	―		現時点	―		
事業期間	前回評価時	1970 年度～2018 年度 (昭和45年度～平成30年度)		現時点	1970 年度～2033 年度 (昭和 45 年度～令和 15年度)		
費用便益比 （Ｂ／Ｃ）	前回評価時	便益(B)	225,038	費用(C)	23,944	Ｂ／Ｃ	9.40
	現時点	便益(B)	267,173	費用(C)	36,754	Ｂ／Ｃ	7.27
事業担当課	建設局 河川部 水環境課　（連絡先：582-2491）						

事業を必要とする地域の課題・事業目的

二級河川神嶽川、砂津川は、小倉北区の足立山に源を発し市街地を流れ、中津口にて砂津川を分流し、船場町で紫川に注ぐ河川である。砂津川は分流した後、JR 鹿児島本線を経て小倉港に注いでいる。

両河川については、治水対策として 1970（昭和 45）年度から、治水安全度 1/30（概ね 30 年に 1 度の頻度で発生する雨）を目標に河川改修を進めてきた。

一方、流域内の開発や資産集積の著しい進展により、本河川では更なる治水安全度の向上が必要となったため、治水安全度を 1/50 に見直し、1994（平成 6）年度より地下調節池を治水計画に含め、整備に取り組んでいる。

本河川においては、過去に 2009（平成 21）年、2010（平成 22）年を含め大雨による浸水が発生しており、水害から市民の生命と財産を守るために、今後も河川整備を進めていくことが必要である。

■災害発生時に想定される影響

神嶽川、砂津川流域に確率規模（1/50）の雨が降った際に想定される氾濫状況

①想定氾濫区域　　：浸水戸数：約 800 戸

②重要な公共施設等：北九州都市高速 IC、都市モノレール停留場、国道３号、足立小学校、足立中学校

③災害弱者関連施設：市立医療センター、市総合保健福祉センター（アシスト 21）

■過去の主要災害実績
①災害年月　　：1999 年６月、2009 年７月、2010 年７月、2013 年７月
②最大浸水戸数　　：111 戸（2009 年）
③公共施設等　　：足立中学校、市立医療センター

■（仮称）旦過地区土地区画整理事業との関連性
旦過地区の区画整理事業が 2020 年度より着手の予定であり、河川改修も旦過及び周辺地区の整備を合わせて行う必要がある。

事業内容

【事業概要】
◇事業期間　　１９７０年度～２０３３年度（昭和４０年度　～令和１６年度）
◇全体事業費　１，６１０百万円
■事業延長　　L=4,020m（神嶽川 L=2,780m、砂津川 L=1,240m）
■整備目標　　確率規模：1/50 （概ね 50 年に 1 度の確率の降雨に耐えうる整備）
■整備内容　　河床掘削、護岸整備、用地買収、地下調節池

（前回評価時からの変更点及びその理由）

■事業の変更点
①事業期間　　【変更前】2018 年度⇒【変更後】2033 年度（15 年間延伸）
②全体事業費　【変更前】146 億円⇒【変更後】161 億円（15 億円増額、＋10.3%）

■変更理由
①事業期間（15 年間延伸）
旦過地区土地区画整理事業の事業着手に合わせ、事業期間を変更するもの。
本事業は、2018 年度の完成を目指し、鋭意整備を進めてきたところである。
しかしながら、旦過地区の護岸整備、河床掘削、近接の橋梁架け替えを旦過市場の区画整理事業と合わせて実施するため、今回（仮称）旦過地区区画整理事業の事業スケジュールに合わせ、事業終了予定を 2033 年度に延伸するもの。

②全体事業費（15 億円増）
主に旦過地区周辺における施工方法の見直しに伴うもの。
旦過地区周辺は軟弱地盤であること、都心部に位置するため施工ヤードが確保できないこと、周辺への環境配慮（無振動、低騒音）等から、旦過地区周辺の護岸整備、橋梁区間における施工方法の見直しを主な理由として、事業費を 146 億円から 161 億円に増額変更し、事業推進を図る。

２．事業費用内訳

（単位：百万円）

		総事業費（計画）	～2017（決算額）	2018(H30)（決算見込）	2019（予算額）	2020 以降（計画）
事業費	工事費	13,065.6	9,989.0	190.0	96.0	2,790.6
	用地・補償費	1,799.2	554.2	12.0	0	1,233.0
	調査費等	1,235.2	1,164.3	8.0	0	62.9
	計	16,100.0	11,707.5	210.0	96.0	4,086.5
財源内訳	一般財源	536.7	390.3	7.0	3.2	136.2
	国庫支出金	5,366.7	3,902.5	70.0	32.0	1,362.2
	県支出金	5,366.7	3,902.5	70.0	32.0	1,362.2
	地方債	4,830.0	3,512.3	63.0	28.8	1,226.0
	その他	0	0	0	0	0

３．事業進捗状況

		～2017	2018(H30)	2019	2020	2021
（前回 2014 年度時点）計画進捗率 終了予定 2018 年度		99%	100%	100%	100%	100%
（今回 2019 年度時点）計画進捗率 終了予定 2033 年度		73%	74%	75%	77%	78%
実績進捗率 終了予定 2033 年度		73%	74%	—	—	—
内訳	工事費	76%	78%	79%	81%	83%
	用地・補償費（面積ベース）	31%（ 34 %）	31%（ 35 %）	31%（ 35 %）	31%（ 35 %）	31%（ 35 %）
	調査費等	94%	95%	95%	95%	95%

事業進捗状況及び見込み

【市の計画での位置づけ】

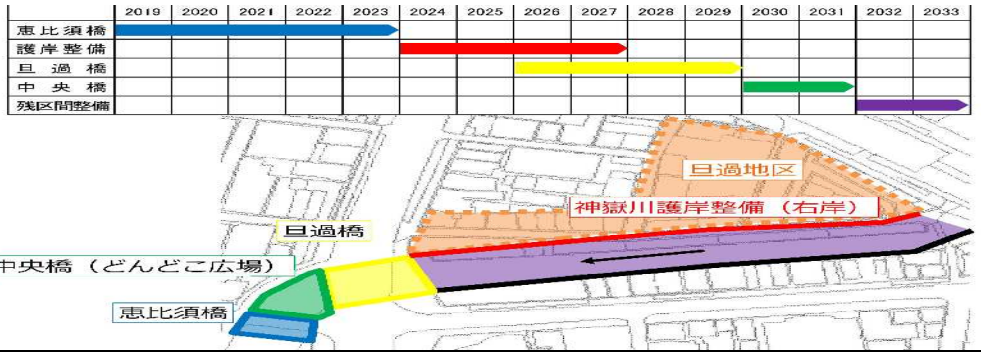
「元気発進！北九州」プランにおいて、河川改修事業は、『都市づくり－都市基盤・施設の充実』に位置付けられている施策である。

【事業の進捗状況と今後の見込み】

事業着手からこれまでの間、神嶽川・砂津川の護岸整備、神嶽川地下調節池、河床掘削などの河川改修を行っている。

2018 年度末の事業進捗率見込は 74%であり、残区間の整備については、2033 年度までに行うこととしている。

＜事業スケジュール（予定）＞



４．事業を巡る社会経済情勢等の変化

神嶽川、砂津川は、小倉北区の中心市街地を流下しており、流域内の平地部は都市化、高度利用化が進んでいる。特に神嶽川の下流部は、本市のシンボル河川である紫川マイタウン・マイリバー整備事業区間に含まれており、資産が集積している。

また、神嶽川沿いには、北九州の台所と称され、市内最大規模の市場である旦過市場があり、最近ではインバウンドも多く訪れるなど、観光、賑わい、商業拠点となっている。

５．地元住民、受益対象者及び関係機関の意向

平地部が宅地化され、資産が増加している一方、近年では 2009 年、2010 年、2013 年に浸水被害が発生しており、早期の河川改修が望まれている。

また、浸水被害解消のため、国の都市基盤河川改修事業を活用するとともに、2015 年２月に国の「100mm/h 安心プラン」に登録され、河川と下水道（雨水排水）が連携し、主に中心市街地エリアで浸水対策を進めている。

６．事業の投資効果やその変化

【事業の投資効果】

今回全体事業費等を見直し、費用便益分析を実施。結果、費用対効果は７．２７となった。

■総便益（B）算定の考え方

事業を実施しない場合と実施した場合の被害額をもとに、事業の実施により防止し得る被害額を「便益」とし、評価期間末における施設の残存価値を加算したものを「総便益」とした。

■総費用（C）算定の考え方

事業着手時点から施設完成に至るまでの総建設費と、評価対象期間内での維持管理費を対象とした。

総便益（B） 割引後		
①	年平均被害軽減期待額	4,319 百万円
②	年便益の総和	266,619 百万円
③	施設残存価値	554 百万円
④	総便益	267,173 百万円
		＝ 2,671.7 億円

総費用（C） 割引後		
①	建設費	33,062 百万円
②	維持管理費	3,692 百万円
③	総費用	36,754 百万円
		＝ 367.5 億円

⇒ 費用便益比（B/C） ＝ 7.27　　※前回評価時の費用便益比（B/C） ＝ 9.40

※1 国土交通省『治水経済調査マニュアル（案）（平成 17 年４月）』により算定。

※2 評価対象期間は、整備期間＋50 年間とした。

※3 現在価値に換算する社会的割引率は４％とした。

７．コスト縮減又は代替案の可能性

旦過地区周辺の改修では、地盤条件、施工条件、周辺への環境配慮等を踏まえ、最も経済的な施工方法を採用している。また、河床掘削の残土処理で港湾事業（埋め立て）を活用した安価な処分により、１億円を縮減している。

本河川の治水安全度向上のためには、河川の断面積を拡げる必要があり、中心市街地を流れ、沿川に店舗等が連担している神嶽川（旦過地区）においては、旦過地区土地区画整理事業と連携して河川改修を行う必要があり、代替案の可能性はないと考える。

８．見直し（縮小・休止・廃止・事業期間の延長等）した場合の影響

本市の中心部を流下する河川であり、流域内の開発や資産が集積しているため、事業見直しによる浸水リスクは大きく、浸水による被害など多大な影響を及ぼすものと考えられる。また、旦過地区の市場再整備（土地区画整理事業）と神嶽川の河川改修は一体として行う必要がある。

９．事業担当部局の考え方

流域内の開発や資産が集積しており、流域の治水安全度を向上する必要がある。

また、旦過地区の市場再整備（土地区画整理事業）と河川改修を一体的に行うためにも、事業を継続実施する。